

大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 東京工業大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-1))

グローバル理工系リーダー養成協働ネットワーク

【プログラムの目的・養成する人材像】

アジア、ヨーロッパ諸国の主要大学との協働の実績を基に、これまで個別的な交流が主であった米国主要大学とも組織的な連携ネットワークを構築し、世界的に活躍する研究者、技術者、企業人、国際機関職員等グローバルエリート人材を養成する。

【構想の概要】

欧米等の先導理工系大学との連携の下、学部生向け研究体験型海外教育プログラムと院生向けの共同指導型交換留学プログラムを中核として、入学から修了・就職まで一貫して国際人教育を行うグローバル理工系リーダー養成システムを構築する。サマープログラムやテラーメイドの研究指導を実施することにより、理工系学生の新たな交流モデルを提示する。

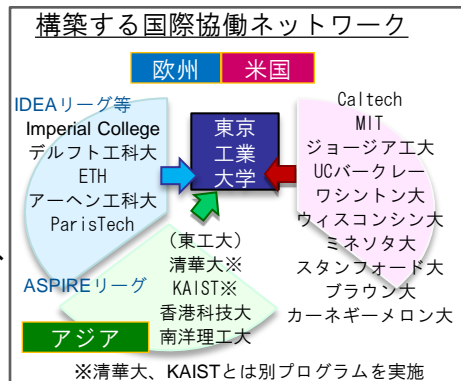
■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 質の保証に関する基本的な考え方

本構想により実施するプログラムにおいては、パートナー大学の高い質保証システムを相互に尊重しつつ、参加する学生が、効果的に履修の成果を挙げることができる認定等の制度を構築することを基本的な考え方としている。

○ 「修学・研究計画書」による指導、助言

個々の学生について、双方の大学の指導教員が連絡を取り合うことを原則としており、「修学・研究計画書」を交わすことにより、派遣前、派遣期間中、そして帰国後にわたる期間、科目履修や研究実施について指導、助言を行う。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

○ 本学が主催する「TiROP」参加学生の受入れ

Tokyo Institute of Technology International Research Opportunities Program (TiROP) の名称により、パートナー大学からサマープログラムをはじめとする研究重視型プログラムに参加する学生の推薦を受け、受入れを行った。

○ パートナー大学への本学学生の派遣

パートナー大学との合意に基づき、学内公募をとおして派遣学生を選考、決定し、派遣を行った。

○ パートナー大学との間の事業実施に関する覚書の交換

各大学との間で具体的な実施について継続的に協議を行っており、両者の間で覚書の交換を行っている。



サマープログラム参加者が談笑している様子

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

17のパートナー大学に、毎年各一人の学生を、「サマープログラムを中心とした教育プログラム」または「大学院共同指導プログラム」のいずれかの枠組みで派遣する。加えて、「短期派遣」の枠組みで学生を派遣する。

○ 外国人留学生の受入れ

17のパートナー大学から、毎年各一人の学生を、「サマープログラムを中心とした教育プログラム」または「大学院共同指導プログラム」のいずれかの枠組みで受入れている。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	0人	22人	20人	14人	17人
学生の受入	0人	17人	25人	29人	17人

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

注)H23～H26は実績、H27以降は計画。

○ 日本人学生の派遣促進のための環境整備

留学を志望する学生の語学力の向上をはかるため、英語トレーニングを開設した。また、留学アドバイザーによる留学先での修学などについての助言を行った。留学中は、国際連携プランナーが、メール等により修学・生活上の相談に対応した。

○ 留学生の受入れ促進のためのサポート体制

プログラムの内容をホームページ上で公表することに加え、来日前から学生と緊密な連絡を取り円滑な受入れを進めている。学内規程や学生向けガイドブックの英文化を進め、留学生受入れのための環境整備を行った。滞日中は、専門の近い本学学生をチューターに指名し、また、カウンセリングや留学アドバイザーによる助言を行った。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

○ 大学の国際化の状況

全学生に占める大学の留学生比率は12%となっている。また、現在進行中の教育改革にて、国際水準での単位互換、教育内容の国際的チューニングを向上させる体制を整えつつある。

○ 情報の発信

プログラムの情報発信については、Webサイトだけではなく、Facebookを積極的に活用した。他にも、卓越した科学技術の素養を持つ理工系グローバルエリート人材の養成を継続的に行うため、高校生に対する啓発活動、長期留学への動機付けを目指しMIT、ジョージア工科大学へ学部生短期集中派遣を行った。